

計画推進のための施策

施策1

本に触れ、言葉・物語・自然等への関心を高める

主な対象
乳幼児期

乳幼児とその家庭を対象として、あらゆる子どもが「本が好き」、「読書が楽しい」と思えるよう、地域総がかりで本に触れる機会をつくります。第一には言葉を着実に身につけるとともに、物語を読むことで得られる高揚感や感動等を通して、楽しさや関心を育てていきます。絵本から始まり児童書へと展開し、図鑑等も活用しながら、周囲の環境に意識を持つように促します。そして社会や自然への関心を高め、言葉でその関心を周囲の大人や友だちに共有することで、知的関心や好奇心を育てていきます。

主な取り組み

- ①子どもにとって身近な読書環境の充実
- ②家庭での読書活動の推進
- ③自然や社会等への関心を高める図鑑等の活用
- ④あらゆる子どもに対する読書への動機づけ

施策2

本に親しみ、知るための基礎を形成する

主な対象
小学生段階

主に小学生段階を対象として、読む本の幅を段階的に広げながら、読み終えることでの達成感や興味・関心の広がりを感じられる読書機会をつくります。そして、子ども一人ひとりにとっての本の好みを見出すように促します。また、読書を楽しむなかで、本が「役に立つ」という実感を得られるよう、学校の授業や学習において、本や事典・図鑑等を活用する方法、さらには学校図書館という情報環境の活用方法を学ぶ機会をつくります。

主な取り組み

- ①様々な本に出会う機会の提供
- ②本を通じたコミュニケーションの活性化
- ③本等や学校図書館を活用した調べ学習の促進
- ④読むことの困難さに応じた読書手段と機会の提供

施策3

本等を自ら読むとする姿勢と調べる力を育む

主な対象
中学生段階

主に中学生段階を対象として、様々な種類の本を数多く読む機会とともに、一冊の本を深く読み込む機会をつくることで、本への信頼感に根差した読書興味を形成します。さらに、特に学校の授業や学習において、情報環境を活用する基礎的な方法を学んだ上で、具体的な問題や課題を想定して複合的な情報環境を活用する体験を積み重ねていきます。

主な取り組み

- ①子どもの嗜好や流行に応じた蔵書の形成
- ②子ども同士のすすめ合いを通じた読書の推進
- ③複合的な情報環境を活用した調べ学習の深化
- ④読むことの困難さに応じた読書手段と機会の提供

施策4

情報環境を活用し、社会にかかわる力を養う

主な対象
高校生世代・大学生世代

高校生世代・大学生世代を対象として、自分の将来や具体的な課題に対して、複合的な情報環境を活用して知識・情報を得ながら、自らの考えを形成していくための調べ学習に取り組みます。そして、その考えを同世代等と共有し、議論することで、解決の方向性や解決策を見出していくトレーニングの機会も提供します。

また、区立図書館や地域での活動に参画するよう促し、子どもの読書活動を促進していく担い手となるように取り組みます。

主な取り組み

- ①自立や社会参画につながる蔵書の形成
- ②読書活動の世代間での循環の促進
- ③読書能力を確立する学びの機会
- ④読むことの困難さに自ら対応することに対する支援

…読書興味にかかわる取り組み …読書能力にかかわる取り組み …読むことの困難さにかかわる取り組み

品川区子ども読書活動推進計画 令和2年度～令和6年度

概要版

目的

本等を活用して、自ら主体的に思考し、行動する人に育つ

あらゆる子どもが、知ろうとする姿勢と「知る」ためのスキルという両輪を手にし、本や事典・図鑑、インターネット・SNS等の情報メディアを活用し、自ら主体的に思考し、行動できるようになること—
これこそが、これからの社会において人生を豊かに生きる力です。
そのような育ちの実現を目指して、「品川区子ども読書活動推進計画」を策定します。

前計画では…

本計画では…

人生を深く生きる力を育むための読書習慣の形成

- 言葉を覚え、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かにしていく。
- 一冊の本を読み終えることが自分に対する自信にもなるとともに、さらなる読書に展開することで興味・関心を広げていく。

人生を深く生きる力

この目的意識の下、品川区では、幼保小連携ならびに義務教育段階9年間の一貫教育を背景として、乳幼児期から小・中学生、さらには高校生世代に至るまで、切れ目なく本を読み続けることを目指してきました。

知ろうとする姿勢

豊かな情報環境を活かし、各々が置かれた状況に応じて必要な知識・情報を得ようとする姿勢
(読書興味)

本等を活用して、自ら主体的に思考し、行動する人に育つ

「知る」ためのスキル

豊かな情報環境を活かし、知識・情報を精査しながら活用する力
(読書能力)

これからの社会において人生を豊かに生きる力

計画の構成

| 目的 | 策定の背景 | 策定の視点 | 目標 | 対象・対象別目標 |
|---|--|---|--|---|
| <p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">本等を活用して、自ら主体的に思考し、行動する人に育つ</p> | <p>a 子どもの好みとその発達を捉えた取り組みが必要である</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 乳幼児期からの継続的な取組が必要である ● 一人ひとりの興味・関心への留意が必要である ● 読書バリアフリー法を踏まえた読書の困難さへの対応が必要となる | <p>A 一人ひとりの育ちや知的関心に応じた継続的な取り組み</p> <p>一人ひとりに応じた本との出会いを通じて、あらゆる子どもが本を読むことの楽しさを実感できる</p> | <p>読書興味</p> <p>本や事典・図鑑はもとより、インターネット上の様々なコンテンツも含めて、「読むこと、知ることを楽しいと思ひ、前向きになる姿勢」</p> | <p>乳幼児期</p> <p>対象の捉え方 乳幼児の頃は、言葉に触れ、自ら言葉を用いながら、他人や環境にかかわっていく時期です。</p> <p>対象別目標 本で物語を読むなかで、身の回りの事物や出来事に触れ、言葉として定着しようとするなかで、読むこと、そして知ることが楽しいと思ひ、自ら行動しようとするを指します。</p> |
| | <p>b 学年が上がるにつれて読書をしなくなるため、読書活動の機会の充実が必要</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学年が上がるにつれて読書する子どもは少なくなる ● 中高生には読書に苦手意識を持つ子どもが一定数いる ● これまで中高生向けの取り組みは十分でなかった | <p>B 読書が好きだという中高生を増やすための取り組み</p> <p>中高生になっても本を読むことに前向きであり続け、本を読み込むことができるようになる</p> | <p>複合的な情報環境</p> <p>豊かであるがゆえに選択肢が多く、適切に活用することが難しい情報環境</p> | <p>小学生段階</p> <p>対象の捉え方 小学生段階の時期は長く、大きく変化を遂げていく時期です。そのため、低学年、中学年、高学年のそれぞれにおいて適切な体験が必要です。</p> <p>対象別目標 複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルの基礎となる読書興味と読書能力を形成することを指します。</p> |
| | <p>c 本等の併用も含め、インターネットを適切に使いこなす必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 小学5年生以上の子どものほとんどがインターネットを利用している ● 検索サイトの利用など、調べ物のツールとなっている ● 本を読む子どもは、インターネットだけでなく、本や辞書・事典も活用している | <p>C 多様なメディアを組み合わせた情報活用能力を育む取り組み</p> <p>多メディアを組み合わせた情報活用能力を身につける</p> | <p>読書能力</p> <p>「本を読み込むことができ、本や事典・図鑑、そしてインターネットやSNS等の情報メディアを活用し、必要な知識・情報を適切に得ることができるスキル」</p> | <p>中学生段階</p> <p>対象の捉え方 アイデンティティが形成される時期であることから、本を通じて自分の考えを形成し、また他人や社会に対する認識を深めるような読書が期待されます。</p> <p>対象別目標 知識社会に主体的にかかわろうとする姿勢を育むとともに、そのための応用的なスキルを高めることを指します。</p> |
| | <p>d 子どもにとって身近な学校図書館を中心として、地域の読書環境を充実させる必要がある</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学年にかかわらず学校図書館は、区立図書館よりも利用されている ● 家庭での読書活動は引き続き充実させる必要がある | <p>D 地域総がかりでの環境形成</p> <p>生まれ育った環境に左右されず、あらゆる子どもが読書活動を行える環境をつくる</p> | <p>子どもが読書を楽しむなかで、また情報環境を活かした学びを続けるなかで、「読書興味」と「読書能力」を補い合うかたちで育むことこそが、複合的な情報環境を活用するために必要なプロセスだと考えます。そして、この姿勢とスキルこそが、これからの社会を生きる子どもたちが身につけるべき新たな〈読書習慣〉なのです。</p> | <p>高校生世代</p> <p>対象の捉え方 高校生世代は、知識・情報の受け手から、知識・情報を活かして行動する主体へと転換する時期とも言えます。</p> <p>対象別目標 社会への参画の準備として、複合的な情報環境を活用する姿勢とスキルを高め、時には実際に社会へと参画することで、知識社会に主体的にかかわる個人となっていくことを指します。</p> <p>大学生世代</p> <p>対象の捉え方 本計画においては、子どもの読書活動を促進するための担い手となることを期待しています。</p> <p>対象別目標 区立図書館が核となって地域の大学生等をつなぎ、読書活動の若い担い手と増やすことを指します。</p> |

読むことに困難さがある子ども

○「読むこと」に関してより活発な行動が行うことができるように育つことを目指します。
○「一人ひとり」の子どもが直面している困難さに配慮し、子ども自身による読書手段の選択を支援することを指します。